

白い鼠黒い鼠

思わぬ獣に
暗い井戸へと
心配すること
命の木の根に
白い鼠が
黒い鼠が
ララララララララ

襲われて
逃げ込んだ
なんてない
つかまった
根をかじる
根をかじる
ラー

底を覗いたら
命を握る手
心配すること
何にも見えない
白い鼠が
黒い鼠が
ララララララララ

竜の口
いや強く
なんてない
ふりをした
根をかじる
根をかじる
ラー

月日の影は
何を望みと
心配すること
上から蜜が
白い鼠が
黒い鼠が
ララララララララ

移り行き
なすべきか
なんてない
落ちてきた
根をかじる
根をかじる
ラー

この独人去く
帰って来いよと

旅人に
声がする

白い鼠黒い鼠

註

思わぬ獣に

襲われて

獣（悪象） 無常

無常に直面しても

暗い井戸へと

逃げ込んだ

井戸 生死の闇宅

生死出離を求めない

心配すること

なんてない

命の木の根に

つかまった

木の根 命根

白い鼠が

根をかじる

白鼠 昼

黒い鼠が

根をかじる

黒鼠 夜

ララララララ

ラー

今も刻々と命終る時は近づいて来る

底を覗いたら

竜の口

竜の口 死

命を握る手

いや強く

死を意識したら死にたくない

心配すること

なんてない

何にも見えない

ふりをした

死は無いことにして生きている

白い鼠が

根をかじる

白鼠 昼

黒い鼠が

根をかじる

黒鼠 夜

ララララララ

ラー

今も刻々と命終る時は近づいて来る

月日の影は

移り行き

虚しく月日は過ぎ行く

何を望みと

なすべきか

何を生きる糧としようか

心配すること

なんてない

上から蜜が

落ちてきた

五感を楽しませるものが見つかった

人生の楽しみが見つかった

人生の生き甲斐が見つかった

白い鼠が

根をかじる

白鼠 昼

黒い鼠が

根をかじる

黒鼠 夜

ララララララ

ラー

今も刻々と命終る時は近づいて来る

この独人去く

旅人に

独生独死独去独来

帰って来いよと

声にする

帰去来、魔郷には停まるべからず

仏の帰家に従ひて本国に還れ

白い鼠 黒い鼠

♩ = 135

Am Em Am Em

おそつ もこき わをひ ぬのの けぞか もいー のたげ にはは おりゅう そうつ わのりゆ れくゆ てちき

5 Am Em Am Am

くー らい いど へと にげ こん だく
い の ちを いに ぎる と い やす つよ かく
な ー に を の ぞみ と な す ベき か

9 Dm Em Am C G C

しんぱい すること なんてない いのちのきのねに つかま った
なんにもみえ ない ふりをした
うえからみつが おちてきた

13 C Am C Am

しろいねずみが ねをかじる くるいねずみが ねをかじる

17 Dm Am E E7 E7 E7 To Coda

ラララララ ララ ラ～

22 Am Em Am Em

このひとり ゆく たびびとに

26 Am G Am D7 G7 C

かえって こいよと こえがする

帰って来いよと	この独人 去く	ララララララララ	黒い鼠が	白い鼠が	上から蜜が	心配すること	何を望みと	月日の影は	ララララララララ	黒い鼠が	白い鼠が	何にも見えない	心配すること	命を握る手	底を覗いたら	ララララララララ	黒い鼠が	白い鼠が	命の木の根に	心配すること	暗い井戸へと	思わぬ獣に
声ができる	旅人に	ラー	根をかじる	根をかじる	落ちてきた	なすべきか	なすべきか	移り行き	ラー	根をかじる	根をかじる	ふりをした	なんてない	いや強く	竜の口	ラー	根をかじる	根をかじる	つかまった	なんてない	逃げ込んだ	襲われて